（別紙様式4）

令和7年6月1日

職業実践専門課程等の基本情報について

学校名	設置認可年月日	校長名	所在地
中央動物総合専門学校	令和2年3月30日	鈴木　康之	〒　424-0806 （住所）　静岡県静岡市清水区辻1-12-17 （電話）　054-371-7000
設置者名	設立認可年月日	代表者名	所在地
学校法人鈴木学園	昭和43年11月9日	理事長　鈴木　啓之	〒　411-0036 （住所）　静岡県三島市一番町15-35 （電話）　055-971-1833

分野	認定課程名	認定学科名	専門士認定年度	高度専門士認定年度	職業実践専門課程認定年度
文化・教養	文化教養専門課程	動物総合学科海洋アクアリウムコース	令和 2(2020)年度	－	令和 4(2022)年度

学科の目的	第3条 中央動物総合専門学校は、教育基本法（昭和22年法律第25号）の精神に則り、学校教育法（昭和22年法律第26号）に従い、動物看護師、トリマー、動物飼育員の養成を行うとともに、教養の向上と人格の陶冶を図るため、組織的な教育を行うことを目的とする。
学科の特徴（取得可能な資格、中退率等）	愛玩動物飼養管理士取得に必要な学科・実習を行う。 1年時に基本、2年時に応用の内容を学習し、実践的な実力を身につけさせる。 NAVAペットケアアドバイザー、潜水士、オープン・ウォーター・ダイバー、アニマルトレーナー2級　ほか

修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技
2 年	昼間	※単位時間、単位いずれかに記入 89 単位	単位時間 54 単位	単位時間 単位	単位時間 35 単位	単位時間 単位	単位時間 単位

生徒総定員	生徒実員(A)	留学生数（生徒実員の内数）(B)	留学生割合(B/A)	中退率
120	123 人	0 人	0 %	6 %

就職等の状況			
■卒業者数 (C)	:	56	人
■就職希望者数 (D)	:	55	人
■就職者数 (E)	:	54	人
■地元就職者数 (F)	:	42	人
■就職率 (E/D)	:	96	%
■就職者に占める地元就職者の割合 (F/E)		98	%
■卒業者に占める就職者の割合 (E/C)		96	%
■進学者数		0	人

■その他

進路未定者:6名

（令和　　5 年度卒業者に関する令和６年５月１日時点の情報）

■主な就職先、業界等

（令和5年度卒業生）

トリミングサロン、動物園、水族館、観光牧場、ペットショップなど

第三者による学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価:　無 ※有の場合、例えば以下について任意記載 評価団体：―　　受審年月：―　　評価結果を掲載したホームページＵＲＬ　―
当該学科のホームページURL	―

企業等と連携した実習等の実施状況（A、Bいずれかに記入）

（A：単位時間による算定）

総授業時数	単位時間
うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数	単位時間
うち企業等と連携した演習の授業時数	単位時間
うち必修授業時数	単位時間
うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数	単位時間
うち企業等と連携した必修の演習の授業時数	単位時間
（うち企業等と連携したインターンシップの授業時数）	単位時間

（B：単位数による算定）

総単位数	89 単位
うち企業等と連携した実験・実習・実技の単位数	単位
うち企業等と連携した演習の単位数	単位
うち必修単位数	単位
うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の単位数	単位
うち企業等と連携した必修の演習の単位数	単位
（うち企業等と連携したインターンシップの単位数）	9 単位

教員の属性（専任教員について記入）

① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを通算して六年以上となる者	（専修学校設置基準第41条第1項第1号）	8 人
② 学士の学位を有する者等	（専修学校設置基準第41条第1項第2号）	6 人
③ 高等学校教諭等経験者	（専修学校設置基準第41条第1項第3号）	1 人
④ 修士の学位又は専門職学位	（専修学校設置基準第41条第1項第4号）	1 人
⑤ その他	（専修学校設置基準第41条第1項第5号）	1 人
計		17 人

上記①～⑤のうち、実務家教員（分野におけるおおむね５年以上の実務の経験を有し、かつ、高度の実務の能力を有する者を想定）の数	17 人

1.「専攻分野に関する企業、団体等（以下「企業等」という。）との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

（1）教育課程の編成（授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。）における企業等との連携に関する基本方針

□教育編成委員会を通して、出された意見をできる限りその年度の授業に反映していく。
また、学科内で情報を共有し、適宜カリキュラムの見直しを行う。
・授業外で企業と連携した特別講義を実施し、常に新しい知識と技術の修得ができる時間を確保する。

（2）教育課程編成委員会等の位置付け
※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記
動物分野に関する企業、団体等との連携体制を確保して、教育課程の編成を行うために、「教育課程編成委員会」を設置。教育課程編成委員は中央動物総合専門学校教員と企業関係者等の外部役員から成るものとし、動物業界の動向や教育に導入すべき先端知識や技術等について意見を交換し、より質の高い教育課程の編成を行うものと位置付ける。生徒が卒業後に企業等で有用な人材をなるために、業界の要請を十分に取り入れた実践的な職業教育が主体的・協働的に編成されるよう、2回の会議と学科会議・コース会議を経て、校長の承認を得て決定する。

（3）教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和6年5月1日現在

名　前	所　　属	任期	種別
鈴木　康之	中央動物総合専門学校	令和6年4月1日～令和7年3月31日（1年）	ー
大橋 としみ	中央動物総合専門学校	令和6年4月1日～令和7年3月31日（1年）	ー
杉山 実緒	中央動物総合専門学校	令和6年4月1日～令和7年3月31日（1年）	ー
近藤 麻矢	中央動物総合専門学校	令和6年4月1日～令和7年3月31日（1年）	ー
坂本 敏	全国動物専門学校協会 副理事長	令和6年4月1日～令和7年3月31日（1年）	①
藤岡 聡美	株式会社わんにゃん通り 代表取締役	令和6年4月1日～令和7年3月31日（1年）	③

※委員の種別の欄には、企業等委員の場合には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。
（当該学校の教職員が学校側の委員として参画する場合、種別の欄は「ー」を記載してください。）
①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、
地方公共団体等の役職員（1企業や関係施設の役職員は該当しません。）
②学会や学術機関等の有識者
③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

（4）教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期
（年間の開催数及び開催時期）
年2回　（10月、3月）

（開催日時（実績））
第1回　令和6年8月27日　15:00～16:30
第2回　令和7年2月28日　16:15～17:45

（5）教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況
※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。

プードル以外の柔らかい毛質の犬種（例：ビションフリーゼ、マルチーズ）に対する実習時間の拡充と、技術指導の強化。（計画）
テリアのプラッキングについても、講義だけでなく実習を取り入れることの検討。（計画）
大型犬の実習における、犬種ごとの特性を踏まえた技術指導の充実。（実行）
1年生のグルーミング実習における、接客スキルの向上に繋がるような、より実践的な内容の導入。（実行）
実習の進捗状況を定期的に評価し、必要に応じてカリキュラムの修正を行う。（評価）
学生からのフィードバックを積極的に収集し、教育課程の改善に役立てる。（評価）
業界の最新動向やニーズを把握し、教育課程に反映させる。（改善）

2.「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習（以下「実習・演習等」という。）の授業を行っていること。」関係

（1）実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

・患者さんへの対応や大動物、海洋動物などの実習は校内で指導することや学生自身が経験することが難しい。実習時に専門分野に関する知識・技能・技術（最新技術や専門性の高い技術）を施設等で経験することは、就職後の実務を遂行する上で大切である。また、企業ニーズ、業界ビジョンを教授することで、仕事に対する目標や、将来像を具体化できる。その他社会人基礎力の習得やその方法を学ぶことができ、社会人力育成に繋がる。

（2）実習・演習等における企業等との連携内容

※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記

□実務に必要な知識と技術の臨地研修

・現場体験と講話による研修

企業等の学生に対する評価表をもとに、学生へフィードバックおよび指導を行っている。また学生は研修内容を発表して他学生と共有している。

（3）具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科　目　名	企業連携の方法	科　目　概　要	連　携　企　業　等
インターンシップ	3.【校外】企業内実習（4に該当するものを除く。）	実際の動物関連施設で実地業務に参加し、これまでに学んだ学習内容を統合し、実務能力の修得・向上を図る。	伊豆三津シーパラダイス・うな利水産株式会社・アクアリウムジムノ・長崎ペンギン水族館・沖縄美ら海水族館など合計12施設

3.「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

（1）推薦学科の教員に対する研修・研究（以下「研修等」という。）の基本方針

※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記

学校法人鈴木学園教職員の研修実施要綱において、教職員は、団体・組織等との連携のもと、専攻分野における実務に関する知識、技術及び技能の修得・向上並びに、授業及び生徒に対する指導力等の修得・向上を図ることを目的として研修機会を確保し、計画的に受講し、研修後は学内での情報共有を図るとともにその成果を教育内容・教育方法に反映する。

（2）研修等の実績

①専攻分野における実務に関する研修等

研修名：	関東研修	連携企業等：	新江ノ島水族館など
期間：	令和6年12月5日～令和6年12月6日	対象：	常勤教職員
内容	新江ノ島水族館などの施設で研修を行い、実務を学習する		
研修名：	アニマルキーパーズカレッジ合同研修	連携企業等：	アニマルキーパーズカレッジ
期間：	令和6年6月26日～令和5年6月28日	対象：	常勤教員
内容	アニマルキーパーズカレッジとの合同研修で飼育など指導技術を学ぶ		

②指導力の修得・向上のための研修等

研修名：	学校法人鈴木学園　夏期教職員研修会	連携企業等：	学校法人鈴木学園
期間：	令和6年8月2日	対象：	常勤教職員
内容	組織、生成AI、各校取り組みについて知る		
研修名：	学校法人鈴木学園　春期教職員研修会	連携企業等：	学校法人鈴木学園
期間：	令和7年3月21日	対象：	常勤教職員
内容	専修学校の新任教員に対し、専修学校教員として必要な基礎知識を身につけさせることにより本県の専修学校教員の資質向上を図る。		
研修名：	新任教員研修会	連携企業等：	公益財団法人静岡県職業教育振興会
期間：	令和6年8月1日～令和6年8月9日	対象：	常勤教員
内容	専修学校の新任教員に対し、専修学校教員として必要な基礎知識を身につけさせることにより本県の専修学校教員の資質向上を図る。		

(3)研修等の計画

①専攻分野における実務に関する研修等

研修名: 日本さかな専門学校　　連携企業等: 日本さかな専門学校

期間: 未定　　対象: 常勤職員

内容 日本さかな専門学校に訪問し、専門実務および学校運営の研修を行う。

研修名: 沖縄ペットワールド専門学校　訪問研修　　連携企業等: 学校法人KBC学園　専修学校沖縄ペットワールド専門学校

期間: 未定　　対象: 常勤職員

内容 沖縄ペットワールド専門学校に訪問し、専門実務および学校運営の研修を行う。

②指導力の修得・向上のための研修等

研修名: 学校法人鈴木学園　夏期教職員研修会　　連携企業等: 学校法人鈴木学園

期間: 令和7年8月2日　　対象: 常勤教職員

内容 未定。

研修名: 学校法人鈴木学園　春期教職員研修会　　連携企業等: 学校法人鈴木学園

期間: 令和8年3月25日　　対象: 常勤教職員

内容 未定。

4.「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1)学校関係者評価の基本方針

学生による学校、教員評価の結果と教職員による学校評価の結果、及び年間計画やカリキュラム、資格試験合格率、就職実績等の資料を基に当該年度の教育活動、前年度の結果を4.(2)にある項目ごとに評価する。評価に当たっては以下の点が守られていること。

□ 自己評価に対する評価を基本とし、改善方策・評価項目・重点目標、学校運営の改善取組み等について言及されていること。

□ 自己評価の評価結果に対して、評価項目ごと学校関係者評価結果が付された相対的な記載となっていること。

□ 学校関係者評価委員会が、主体的・能動的な評価を実施していること。

【改善等への活用方針】

・改善案は評価項目毎の評価を基に、学校関係者評価委員に改善の方針をできるだけ委員会内で示す。

・学校関係者評価委員会の評価を参考に具体的な活用方法については学校内で別途検討する。

・改善した内容に関しては、職業実践専門課程様式4に基づいて毎年公開する。

(2)「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1)教育理念・目標	(1)教育理念・目標
(2)学校運営	(2)学校運営
(3)教育活動	(3)教育活動
(4)学修成果	(4)学修成果
(5)学生支援	(5)学生支援
(6)教育環境	(6)教育環境
(7)学生の受入れ募集	(7)学生の受入れ募集
(8)財務	(8)財務
(9)法令等の遵守	(9)法令等の遵守
(10)社会貢献・地域貢献	
(11)国際交流	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)学校関係者評価結果の活用状況

・教職員の情報共有については日々見直しを行う。

・スケジューリングを細かく行い、教育行事の準備に余裕を持つようにする。

(4)学校関係者評価委員会の全委員の名簿

名　前	所　　属	任期	種別
中野光生	プラスシーアクアリウム	令和6年6月1日～ 令和7年5月31日(1年)	企業等委員
廣瀬泰介	中央調理製菓専門学校静岡校(グループ校)	令和6年6月1日～ 令和7年5月31日(1年)	他校関係者
望月マキ	海洋アクアリウム学生保護者	令和6年6月1日～ 令和7年5月31日(1年)	保護者

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例)企業等委員、PTA、卒業生等

(5)学校関係者評価結果の公表方法・公表時期
(◯ホームページ ・ 広報誌等の刊行物 ・ その他( ))
URL: https://suzuki.ac.jp/animal/disclosure/

公表時期: 令和7年6月1日

5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1)企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針
ホームページへの学校活動の掲示

(2)「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1)学校の概要、目標及び計画	開　示:学校の概要、事業計画
(2)各学科等の教育	開　示:カリキュラム(HP、パンフレット)
(3)教職員	開　示:教職員
(4)キャリア教育・実践的職業教育	開　示:インターンシップ研修
(5)様々な教育活動・教育環境	開　示:年間スケジュール
(6)学生の生活支援	開　示:アパート紹介
(7)学生納付金・修学支援	開　示:納付金
(8)学校の財務	開　示:貸借対照表、収支計算書
(9)学校評価	開　示:学校関係者評価
(10)国際連携の状況	
(11)その他	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)情報提供方法
(◯ホームページ ・ 広報誌等の刊行物 ・ その他( ))
URL: https://suzuki.ac.jp/animal/disclosure/

公表時期: 令和7年6月1日

授業科目等の概要

	（文化教養専門課程 動物総合学科海洋アクアリウムコース）																	
	分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
	必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
1	○			動物総合学/実習	コース分けを行うためにコース分け後に行う実習や座学を学んでもらう。そこから2年間の学生生活のイメージをもってもらう。また、各業界の型をお呼びして業界説明も行ってもらう。	1前	30	1	○		△	○		○	○	
2	○			公衆衛生学Ⅰ	公衆衛生学の基礎知識の習得：疫学、感染症、環境衛生など、公衆衛生学の主要な分野に関する基礎知識を習得。 健康問題の分析能力：社会における健康問題を多角的に分析し、その原因と対策を考察できる能力を養う。 問題解決能力：公衆衛生上の課題に対して、科学的根拠に基づいた解決策を提案できる能力を養う。 国際的な視野：世界の公衆衛生問題に関心を持ち、国際的な協力の重要性を理解する。	1前	26	1	○			○			○	
3	○			生物分類学Ⅰ	生物に関する学問の基礎となる生物分類について学び、幅広い知識を身に着ける。陸上動物・水生生物・植物の各分野を広く扱う。また生物分類技能検定受験に向けての対策も行う。	1前	54	3	○			○		○	○	
4	○			生物分類学Ⅱ	生物に関する学問の基礎となる生物分類について学び、幅広い知識を身に着ける。陸上動物・水生生物・植物の各分野を広く扱う。また生物分類技能検定受験に向けての対策も行う。	2前	30	2	○			○		○		
5	○			愛玩動物飼養管理学	愛玩動物関連の組織や歴史、法規、栄養、からだのしくみなどの知識を全般にわたって学習する。	1通	90	6	○			○			○	
6	○			水族館収集輸送各論	受講生の多くが水族館就職希望であることを考慮し、水族館の主たる展示生物である魚類・無脊椎動物・植物の収集、輸送、保存について、水族館飼育員の基本となる「飼育ハンドブック」の内容を理解するとともに、学んだ各項目に対し、柔軟な適応力を持ち実践できるような講義とする。	1通	54	3	○			○			○	
7	○			水族館教育各論	受講学生すべてが水族館就職希望であることを考慮し、水族館での教育・研究・広報及び繁殖についての基本的な考え方や取り組み・手法などを、水族館飼育員の基本となる「飼育ハンドブック」から学び、学んだ各項目に対し、柔軟な適応力を持ち実践できるような講義とする。	2通	60	4	○			○		○		
8	○			魚類学/実習Ⅰ	多くの水生生物を扱う職場で重要となる「魚類」について、形態・分類・生体・飼育方法などを詳細に学ぶ	1通	54	1	○			○		○		
9	○			魚類学/実習Ⅱ	多くの水生生物を扱う職場で重要となる「魚類」について、形態・分類・生体・飼育方法などを詳細に学ぶ	2通	60	2	○			○		○		
10	○			水棲哺乳類学Ⅰ	学生は将来水族館で水棲哺乳類を飼育する際に特にクジラ、イルカ、アザラシ、ジュゴンなど、水中で生活する哺乳類の生理、生態、繁殖について学習する	1通	54	3	○			○		○		

11	○			水棲哺乳類学Ⅱ	学生は将来水族館で水棲哺乳類を飼育する際に特にクジラ、イルカ、アザラシ、ジュゴンなど、水中で生活する哺乳類の生理、生態、繁殖について学習する	2通	60	4	○			○		○		
12	○			コンパニオンアニマルアニマル学Ⅰ	コンパニオンアニマルの生物学的な知識を習得し、それぞれの動物の特性を理解する。 適切な飼育管理の方法を習得し、動物の健康と福祉を維持できるようになる。 動物愛護の重要性を認識し、人との共生について深く考えることができる。	1通	36	2	○			○		○		
13	○			コンパニオンアニマル学Ⅱ	コンパニオンアニマルの生態や飼育管理方法について学ぶ	2通	60	4	○			○		○		
14	○			トレーニング学/実習Ⅰ	犬の学習理論、特に陽性強化トレーニングの手法を学び、実際のトレーニングに適用できるスキルを身につけます。犬とのコミュニケーションにおいては、ボディランゲージやカーミングシグナルを正確に読み取り、犬の行動を理解し、適切な対応を行う力を養います。加えて、犬のストレスに関する知識を深め、ストレスの原因やサインを識別し、効果的に対応する方法を学ぶ。	1通	30	1			○	○			○	
15	○			ドルフィントレーニング学/実習	動物をトレーニングする際に必要な専門用語について学ぶ。また具体的な例を用いて実践的なトレーニング手法について学ぶ。座学で学んだ知識を活用し飼育動物に種目をトレーニングすることで技術も習得する	2通	60	2			○	○		○		
16	○			アクアリウム学/実習Ⅰ	アクアリウム実習の授業では、水生生物の飼育管理に関する幅広い知識と技術を習得することができます。水槽の立ち上げから、水質管理、生物の選定から飼育、レイアウトなど、実際に水槽を管理する上で必要なことを実践を通して学びます。	1通	##	5			○	○			○	
17	○			アクアリウム学/実習Ⅱ	アクアリウム実習の授業では、水生生物の飼育管理に関する幅広い知識と技術を習得することができます。水槽の立ち上げから、水質管理、生物の選定から飼育、レイアウトなど、実際に水槽を管理する上で必要なことを実践を通して学びます。	2通	##	4			○	○			○	
18	○			飼育実習Ⅰ	様々な動物の飼育管理に関する基礎知識と実践的なスキルを習得することを目的とする。 動物の生物学、行動学、飼育環境の整備、健康管理、繁殖管理など、幅広い分野を学び、動物福祉の重要性を理解し、動物との共生について考える。	1通	90	3			○	○		○		
19	○			飼育実習Ⅱ	本授業では、動物園、水族館、動物病院など、様々な動物を取り扱う施設で働く飼育員の業務を体験し、動物の飼育管理に関する実践的なスキルを習得することを目的とします。動物の生理、生態、行動を深く理解し、動物福祉の重要性、動物との共生について学び、将来、動物に関わる職業に就くための基礎を築きます。	2通	30	1			○	○		○		
20	○			スイミング実習Ⅰ	本授業は、学生が水泳の基本的な技術を習得し、各泳法（クロール、平泳ぎ、背泳ぎ）のフォームや効率的な泳法を身につけることを目的としています。特に、泳法の基本を学びながら、ターンやスプリント技術の習得を目指し、競技水泳の基礎から応用までを実践的に学びます。さらに、体力の向上と持久力の強化を目指すとともに、自己評価を通じて継続的な技術向上を目指します。	1通	80	2			○	○			○	

21	○			スイミング実習Ⅱ	本授業は、学生が水泳の基本的な技術を習得し、各泳法（クロール、平泳ぎ、背泳ぎ）のフォームや効率的な泳法を身につけることを目的としています。特に、泳法の基本を学びながら、ターンやスプリント技術の習得を目指し、競技水泳の基礎から応用までを実践的に学びます。さらに、体力の向上と持久力の強化を目指すとともに、自己評価を通じて継続的な技術向上を目指します。	2通	80	2			○	○			○	
22	○			水槽管理実習（清水銀座）	1年次で学習した水槽管理の知識や技術を生かし、顧客の要望に合わせた水槽レイアウトを提案し、実際に作成した水槽の定期メンテナンスを行う。	2通	90	3			○		○	○		
23	○			動物製菓実習Ⅰ	犬のおやつの基本的な調理法を学ぶ。	1通	54	1			○		○	○	○	
24	○			動物製菓実習Ⅱ	犬のおやつの基本的な調理法を学ぶ。	2通	60	2			○		○	○	○	
25	○			ビジネス論Ⅰ	学生が社会人として求められる基礎力（コミュニケーション力、主体性、課題解決力など）を理解し、実践できるようになる。また、働くことの目的や意義を明確にし、将来のキャリア形成に活かすことを目指す。 パソコン・スマートフォンやインターネットの操作技術、ITリテラシーを向上し、プレゼンテーション能力を向上させる。	1通	54	3	○			○		○	○	
26	○			ビジネス論Ⅱ	①学生は情報伝達能力、表現力、コミュニケーション能力などを高め、論理的思考力や問題解決能力を養うことで、社会で役立つプレゼンテーションのスキルを培う。 ②学生は「サービス」「接遇」についての初歩的な知識と実技を理解する。これらを軸にサービス業務に対する心構え、対人心理の理解、言語非言語を通しての価値ある基本の応対技術を培う。	2通	60	4	○			○			○	
27	○			ペットケアアドバイザー	この授業では,産業に適用し得るため,応用への橋渡し教育として,いわゆる病気,疾患治療の根幹の一角を為す健康,衛生管理等を習得する	1通	36	2	○			○			○	
28	○			ペット防災概論	「ペット防災」について過去の災害事例からどの様な備えが必要かを学ぶ。また実習では座学で学んだことを活かしハグ、ペットハグ、同行避難訓練、避難所設営訓練で実技を学ぶことでヒトと動物が平常時も災害時も共生できる社会を目指す上で必要な知識や技術を身につける。	2通	30	2	○			○			○	
29	○			ダイビング学	ダイビング関連の資格（オープンウォーターダイバー・潜水士）取得のためにダイビングに関わる知識や技術、注意点を学び、職業選択の幅を広げる。	1通	54	3	○			○			○	
30	○			就職試験対策Ⅰ	就職活動の流れを理解し、筆記試験を中心とする就職試験の対策を演習形式で実施する	1後	26	1	○			○		○		
31	○			就職試験対策Ⅱ	就職活動の流れを理解し、筆記試験や面接試験等の就職試験の対策を実施する	2前	30	2	○			○		○		
32	○			専門用語演習	実習やインターンシップに行った際に、スムーズに業務を進めることができるよう、専門用語を理解し、実践に備える	1通	26	1	○			○		○		
33	○			インターンシップⅠ	インターンシップは、職業観や就業意識を向上させ、2年次の進路選択に役立てることを目的としています。	1通	80	5	○				○	○	○	
34	○			インターンシップⅡ	2年次のインターンシップは、１年次に学んだ動物基礎知識、応用知識を踏まえて動物現場の仕事内容を理解し、進路選択に役立てることを目的としています。	1通	60	4	○				○	○	○	

35			○	ダイビング演習	PADIオープンウォーターダイバー資格を取得し、ダイビングの実践的な技術を身に着ける	1他	24	1	○					○		○	
36			○	実践力育成	接客能力や非認知能力を高めるためにオープンキャンパス等の学生スタッフを通じて総合的な能力を高める学習を行う。	1後/2前	30	2			○	○		○			
37			○	海外施設見学研修	海外の施設を見学することにより文化の違いを理解し、多様性を学ぶ。	1後/2前	60	4			○	○		○			
合計						37 科目										96 単位（単位時間）	

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
卒業要件： 全科目履修	１学年の学期区分	2 期
履修方法： 各教科における定期試験・課題・出席について学則に定める合格点を取	１学期の授業期間	15 週

（留意事項）

１　一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。

２　企業等との連携については、実施要項の３（３）の要件に該当する授業科目について○を付すこと。